

腹腔鏡内視鏡 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第10回 2014年10月25日

■演題 1	漿膜を被覆し内腔から切除を行う内視鏡的胃全層切除術 (sealed EFTR) の開発 ～センチネルリンパ節転移陰性 cT1 胃癌に対する新たな縮小手術の開発～
-------	---

代表演者：北方秀一 先生（金沢医科大学 消化器内視鏡学）

共同演者：[金沢医科大学 消化器内視鏡学] 小豆澤定史 伊藤理佳 濱田和 川浦健 伊藤透

[金沢医科大学 一般消化器外科学] 木南伸一 小坂健夫

【目的】早期胃癌において sentinel node concept が成立し、センチネル陰性 cT1 胃癌に対しては、腹腔鏡・内視鏡合同手術による局所全層切除が可能となる。必要最小限のマーシで切除するには、内視鏡で範囲を確認しながら切除を行う事が理想であるが、胃の虚脱による視野不良、穿孔による感染・播種の危惧が問題となる。そこで、漿膜を被覆し粘膜を露出させずに、胃内腔から胃壁の全層切除を行う方法を検討したので報告する。

【方法】プタ胃を用い、仮想病変の漿膜にシリコンシートおよびガーゼを置き、フィブリノゲン、トロンピン液で接着させた後、内視鏡的に全層切除を行った。

【結果】漿膜を覆うことで、胃の虚脱・胃液の流出を防ぎ、胃内腔から切除ラインを確認しながら全層切除が可能であった。

【結語】本手法により、胃粘膜を腹腔に露出させず、かつ、病変の位置を確認しながら良好な視野で正確に切除することが可能となり、有用な手技であると思われる。